

取扱注意 ラジオ・テレビ 平成28年12月15日(木) 14時30分以降
新 聞 平成28年12月16日(金) 付朝刊

平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について
平成28年12月14日(木) 秋田県教育委員会

I 調査結果について

- 1 実施期間 平成28年4月から7月末までの期間
※教育委員会アンケートは6月30日までの実施期間
- 2 調査対象
 - ・小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年
 - ・中学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年
- 3 調査事項
 - (1) 児童生徒に対する調査
 - ・実技に関する調査
 [小学校、中学校8種目]
 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、
 ※持久走(男子1500m 女子1000m)、20mシャトルラン、
 50m走、立ち幅とび、ボール投げ(小学生ソフトボール、中学生ハンドボール)
 ※小学生は20mシャトルランのみの実施
 ※中学生は持久走か20mシャトルランのどちらかを選択して実施
 - ・質問紙調査(運動習慣、生活習慣等)
 - (2) 学校に対する調査
 - ・質問紙調査(子供の体力向上に係る学校の取組等)
 - (3) 教育委員会に対する調査
 - ・質問紙調査(子供の体力向上に係る施策等)
- 4 調査学校数、児童生徒数

	調査学校数		児童生徒数	
	小学校	中学校	小学校	中学校
秋田	215校 小201/特14	129校 中115/特14	7,393人 男3,716人/女3,677人	7,905人 男3,987人/女3,918人
全国	20,272校	10,593校	1,035,806人 男528,727人/女507,079人	1,043,567人 男533,395人/女510,172人

※秋田県の数値は、公立学校数〔都道府県(域内の市町村含む)教育委員会〕による。
 ※全国の数値は、すべての学校数(国立大学法人附属学校、公立学校、私立学校)による。

5 概観

今年度、小学校第5学年と中学校第2学年、特別支援学校の小学部第5学年と中学部第2学年を対象に行われた、「平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点の結果では、全国平均値が全体的に上昇している中、本県の男女ともに、体力合計点において全国平均値より高い状況である。特に小学校女子は、本調査実施の平成20年度以降、最高値となっている。

また、「運動が好き」や「運動が大切」、「体育の授業は楽しい」などの運動やスポーツに関する意識も昨年同様全国平均値より高い状況にある。

しかし、校種や男女別種目、質問紙項目などを個別にみると、課題があると思われる。

今後、各調査結果の分析を進めていく。

【体力合計点】

H28	小学校第5学年		中学校第2学年	
	男子	女子	男子	女子
秋田	56.40点	59.04点	44.03点	51.12点
全国	53.92点	55.54点	42.13点	49.56点

〈H27〉

秋田	56.00点	58.27点	44.42点	50.72点
全国	53.80点	55.18点	41.89点	49.08点

〈H26〉

秋田	56.27点	58.24点	44.15点	50.04点
全国	53.91点	55.01点	41.74点	48.66点

※「秋田」、「全国」共に公立学校の平均値である。

※体力合計点とは、種目別得点表により採点した各種目の点数の合計である。

なお、採点の判定基準については、学年や男女で異なる。

6 実技に関する調査の結果

本県の体力合計点については、全国平均値より小・中学校ともに高い結果となり、本県の小学校第5学年と中学校第2学年の体力・運動能力は、おおむね良好な状況にあると判断している。

昨年度の体力合計点と比較してみると、小5男子、中2男女はほとんど変化が見られないが、小5女子は、わずかに高くなっている。種目については、小5男女の反復横とび、20mシャトルラン、ソフトボール投げ、小5女子の上体起こし、立ち幅とび、中2男女の長座体前屈、中2男子の握力などが全国平均に比べ、特に高くなっている。

しかし、中2男子の種目が全国平均を上回っているものの、全体的に低下傾向にあるなど課題も見られる。

結果から本県児童生徒の体力にかかわる実態を捉え、引き続き分析を進めていく。

【各種目の平均値】

小学校 第5 学年	種 目	単位	全国男子	本県男子		全国女子	本県女子	
	① 握力	kg	16.47	16.99	+	16.13	16.77	+
② 上体起こし	回	19.67	20.58	+	18.60	20.10	+	
③ 長座体前屈	cm	32.87	34.14	+	37.21	38.67	+	
④ 反復横とび	点	41.97	44.54	+	40.06	43.08	+	
⑤ 20mシャトルラン	回	51.89	59.06	+	41.29	49.38	+	
⑥ 50m走	秒	9.38	9.45	-	9.61	9.55	+	
⑦ 立ち幅とび	cm	151.39	154.51	+	145.31	150.29	+	
⑧ ソフトボール投げ	m	22.42	24.23	+	13.88	15.47	+	
H28体力合計点		点	53.92	56.40	+	55.54	59.04	+
H27体力合計点		点	53.80	56.00	+	55.18	58.27	+

中学校 第2 学年	種 目	単位	全国男子	本県男子		全国女子	本県女子	
	① 握力	kg	28.91	30.82	+	23.75	24.49	+
② 上体起こし	回	27.46	27.66	+	23.48	23.69	+	
③ 長座体前屈	cm	43.06	45.60	+	45.46	47.44	+	
④ 反復横とび	点	51.93	51.95	+	46.60	46.73	+	
⑤ 持久走	秒	391.72	390.32	+	288.51	292.48	-	
⑤ 20mシャトルラン	回	86.24	87.21	+	58.80	59.93	+	
⑥ 50m走	秒	8.03	7.99	+	8.83	8.83		
⑦ 立ち幅とび	cm	194.69	198.50	+	168.28	170.02	+	
⑧ ハンドボール投げ	m	20.59	21.32	+	12.85	13.47	+	
H28体力合計点		点	42.13	44.03	+	49.56	51.12	+
H27体力合計点		点	41.89	44.42	+	49.08	50.72	+

※体力合計点とは、種目別得点表により採点した各種目の点数の合計である。

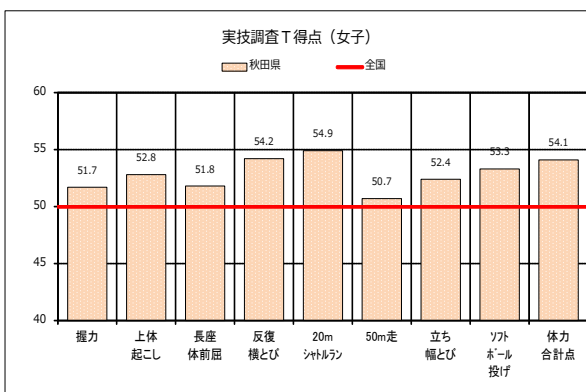
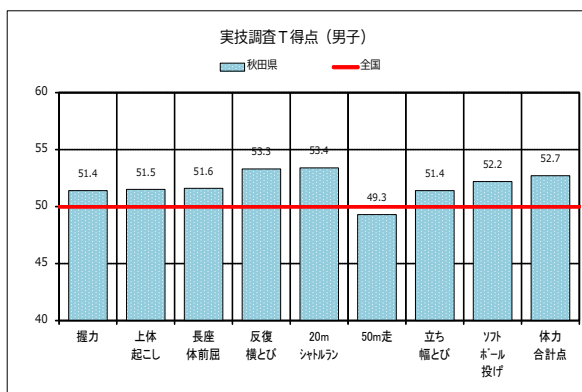
なお、採点の判定基準については、学年や男女で異なる。

※全国平均値を上回っている項目を+、下回っている項目を-で表示している。

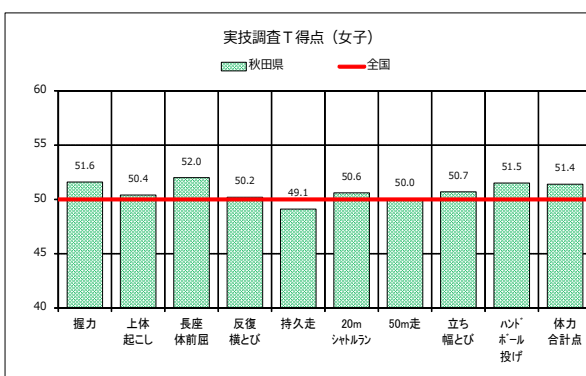
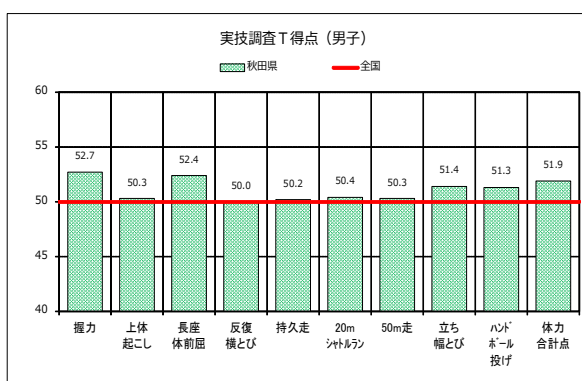
【T得点による状況】

※T得点：全国平均に対する相対的位置を示す。

○小学校第5学年



○中学校第2学年



7 質問紙調査の結果

児童生徒への質問紙調査の主な内容は、「運動やスポーツへの意識」、「運動習慣」、「生活習慣」等である。調査項目には、授業の「楽しさ」や「目標が示されている」など体育・保健体育の授業に関するものや「自主的な運動」などの運動習慣、「運動」、「食事」、「睡眠」などの健康の意識に関するものが含まれている。

本県の結果は、全体的に望ましい傾向となっている。特に、運動やスポーツが「好き」、「大切」、「卒業後に自主的に運動をしたい」などの割合が高い。授業に関しては、「体育の授業は楽しい」、「助け合いや役割を果たす活動」の割合が高い。さらに、新たな設問である、「授業で学んだことを授業以外で行う」や「体力の向上について自分なりの目標を立てている」、「最後までやり遂げてうれしかったことがある」などの意識も全国平均を大きく上回る結果となった。

しかし、中2女子の「1週間の総運動時間が60分未満の割合」が全国平均値より高いなど、運動習慣の2極化傾向につながる課題も見られる。

【児童生徒質問紙調査の主な項目（％）】

小学校 第5学年	主な項目	全国男子	本県男子		全国女子	本県女子	
	1 運動やスポーツをすることは好きか ＜回答「好き」＞	73.0	79.4	+	56.7	61.7	+
4 運動やスポーツは大切なものですか ＜回答「大切」＞	69.7	76.6	+	58.9	67.9	+	
5 中学校で授業以外に自主的に運動したい ＜回答「思う」＞	75.0	81.9	+	68.2	76.5	+	
6 一週間の総運動時間（分）	602.92	666.07	+	370.26	440.39	+	
一週間の総運動時間 ＜回答「60分未満」＞	6.6	4.3	+	11.6	10.1	+	
11 運動部やスポーツクラブへの所属 （スポーツ少年団を含む） ＜回答「はいっている」＞	79.3	85.1	+	51.6	61.4	+	
13 家の人からの積極的な運動のすすめ ＜回答「よくある」＞	26.5	30.3	+	16.7	20.7	+	
14 健康に運動は大切 ＜回答「大切」＞	79.7	85.3	+	76.2	81.7	+	
17 体育の授業は楽しい ＜回答「楽しい」＞	73.2	77.3	+	60.3	64.3	+	
18 体育授業の目標が示されている ＜回答「示されている」＞	49.2	55.9	+	47.7	51.5	+	
19 体育授業でのふり返る活動 ＜回答「行っている」＞	28.9	35.4	+	27.0	31.6	+	
20 体育の授業での助け合う活動 ＜回答「行っている」＞	48.9	60.8	+	52.5	63.1	+	
21 体育の授業で話し合う活動を行っている ＜回答「行っている」＞	48.5	52.6	+	44.6	48.3	+	
23 体育の授業で学んだことを、授業以外に 行う ＜回答「行ってみようと思う」＞	45.1	52.7	+	44.7	51.4	+	
28 体力の向上について自分なりの目標 ＜回答「目標を立てている」＞	70.5	81.3	+	71.1	82.4	+	
31 最後までやり遂げてうれしかったことが ある ＜回答「当てはまる」＞	71.7	77.3	+	73.5	77.2	+	

中学校 第2学年	主な項目	全国男子	本県男子		全国女子	本県女子	
	1 運動やスポーツをすることは好きか ＜回答「好き」＞	63.6	69.8	+	46.9	51.4	+
3 運動やスポーツは大切なものですか ＜回答「大切」＞	64.5	72.4	+	50.2	57.3	+	
4 中学卒業後、自主的に運動したい ＜回答「思う」＞	65.4	72.5	+	51.8	57.9	+	
5 一週間の総運動時間（分）	964.32	1057.54	+	685.18	704.61	+	
一週間の総運動時間 ＜回答「60分未満」＞	6.4	5.3	+	20.6	21.3	-	
10 運動部活動等について ＜回答「運動部活動所属」＞	78.5	81.5	+	58.3	57.5	-	
12 家の人からの積極的な運動のすすめ ＜回答「よくある」＞	27.3	32.3	+	19.4	23.6	+	
13 健康に運動は大切 ＜回答「大切」＞	76.4	81.2	+	68.6	72.4	+	
16 体育の授業は楽しい ＜回答「楽しい」＞	50.2	64.2	+	38.8	48.5	+	
17 体育授業の目標が示されている ＜回答「示されている」＞	55.5	75.5	+	53.0	74.7	+	
18 体育授業でのふり返る活動 ＜回答「行っている」＞	38.8	62.7	+	39.4	61.7	+	
19 体育の授業での助け合う活動 ＜回答「行っている」＞	46.8	70.9	+	52.6	72.0	+	
20 体育の授業で話し合う活動を行っている ＜回答「行っている」＞	44.1	64.1	+	41.6	57.4	+	
22 体育の授業で学んだことを、授業以外に 行う ＜回答「行ってみようと思う」＞	31.4	43.7	+	23.2	30.6	+	
27 体力の向上について自分なりの目標 ＜回答「目標を立てている」＞	60.0	72.6	+	58.9	71.8	+	
30 最後までやり遂げてうれしかったことが ある ＜回答「当てはまる」＞	72.7	78.4	+	74.8	78.6	+	

※全国平均値を上回っている項目を+、下回っている項目を-で表示している

8 学校に対する調査の結果

学校への質問紙調査の主な内容は「児童生徒の体力向上に係る学校の取組」や「体育の授業改善」、「生活習慣」等である。

全国平均と比べると、「運動・スポーツが苦手な児童生徒向けの取組、性別に応じた取組」の割合が、小・中学校ともに上回っている。また、「授業の目標を児童生徒に示す活動」、「授業で学習したことを振り返る活動」の割合が高くなっている。各校で個を大切に、体を動かす楽しさを実感させ、課題解決につながる質の高い体育の授業が展開されている一端と考える。

さらに、「運動」、「食事」、「睡眠」の大切さの伝達の割合が高いことから、体力の維持・向上につながる望ましい習慣や環境づくりにつながっているものと考えられる。

しかし、結果はあくまでも平均値であり、各校の状況に応じた課題があると思われる。

【学校質問紙調査の主な項目（％）】

主 な 項 目	全国小学校	本県小学校		全国中学校	本県中学校	
2 前年度、学校全体で体力・運動能力の向上のための目標設定 ＜回答「設定している」＞	65.9	64.6	－	58.4	50.4	－
3 運動・スポーツが苦手な児童生徒向けの取組、性別に応じた取組 ＜回答「行っている」＞	54.8	61.7	＋	57.7	74.0	＋
4 調査結果を踏まえた授業等の工夫改善 ＜回答「行った」＞	56.1	57.9	＋	59.1	63.8	＋
5 授業の目標を児童生徒に示す活動 ＜回答「いつも取り入れている」＞	34.4	42.1	＋	53.4	72.4	＋
6 授業で学習したことを振り返る活動 ＜回答「いつも取り入れている」＞	23.7	33.5	＋	39.8	61.4	＋
7 授業で児童生徒が助け合い、役割を果たす活動 ＜回答「いつも取り入れている」＞	28.9	32.1	＋	35.9	37.8	＋
8 授業で児童生徒同士で話し合う活動 ＜回答「いつも取り入れている」＞	13.5	14.4	＋	18.6	22.0	＋
14 前年度、全児童生徒に対する体育の授業以外での体力・運動能力向上に係る取組 ＜回答「行った」＞	89.0	92.3	＋	46.5	41.7	－
16 健康の三原則の大切さの伝達 ＜回答「様々な場面で計画的に伝える」＞ ＜回答「機会を捉えて適宜伝える」＞	94.1	97.1	＋	96.4	98.4	＋

※全国平均値を上回っている項目を＋、下回っている項目を－で表示している

Ⅱ 結果の活用について

実技や質問紙の調査結果を分析し、今後も体育・保健体育の授業を核として、学校や児童生徒の実態に応じた体力向上に向けた取組の充実を図っていきたい。

各学校が、スポーツ庁から配付される「調査結果報告書」や「児童生徒活用シート」を積極的に活用し、成果や課題を分析するとともに、自校の体力向上に向けた取組を検証・改善できるよう、研修や学校訪問等を通して、指導・助言していく。

そのことで、運動やスポーツ、体育・保健体育の授業が「好き」、「大切」などの意識が一層高まり、児童生徒の望ましい運動習慣の確立につながることで、全ての子どもの運動に親しむ機会が増え、結果的に体力の維持・向上が図られることを期待している。

Ⅲ その他（県教育委員会の取組）

◇小・中・高等学校学校体育担当者連絡協議会（H18～）

- ・毎年4月に開催。各小・中・高等学校の体育担当者が、連絡協議会の中で、グループ協議や演習などを行い、児童生徒の体力の現状と課題等について理解を深めるとともに、体づくり運動の指導法など、質の高い授業づくりに向けた研修を行う。

◇保健体育課学校訪問

- ・学習指導要領及び解説（体育・保健体育編）の目的及び内容等に基づく授業づくりや授業実践のために、児童生徒の体力・運動能力の向上や現代的な健康課題の解決に向けて支援をする。

◇新体力テストの全員実施・抽出データフィードバック

(H15～)

- ・児童生徒一人一人の実態を明らかにし、学校における体育指導の充実や体力向上の取組に生かすため、県内の小・中・高等学校の児童生徒を対象に新体力テストを実施する。
- ・全小・中学校の各学年から1学級抽出、全高等学校の各学年から男女各20名無作為抽出し、結果を分析する。

◇学校まるごと体力向上推進事業（H26～）

◇武道等指導推進事業（H24～）

- ・小学校及び中学校へ地域の人材（高等学校教員等含む）を派遣しチームティーチングを行い、児童の技能の向上とつまずきへの対応を行うとともに、教員の指導力向上につなげる。

◇ウインタースポーツパワーアップ事業（H22～）

- ・雪国である本県の自然条件を生かして、積極的にウインタースポーツに親しみ、児童の体力の維持・向上を図る。

◇てくてくとくとく歩いて学校へ行こう運動（H13～）

- ・児童生徒の安全を第一に考え、各学校や地域の実情に合わせた徒歩通学を奨励し、運動の日常化の機会を増やす。

◇学校体育・学校健康教育資料集の発行（S33～）

- ・児童生徒の体力や健康等に関するデータを提供し、本県の実態把握や共通理解を図る。

◇学校体育必携の発行（H24・25・26）

- ・体育、保健体育の授業づくりや体力の向上に関する情報を提供し、教科指導の充実や学校教育活動全体での取組を支援する。